



森のなかま

2011年 3月号

NO. 35 (継続180)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

かながわ森林インストラクターの技能向上を目指して！！ ＜森林インストラクターブラッシュアップ研修＞

* 人工林の整備/間伐方法と安全管理について *

森林部会・部会長 浦野 稔



間伐作業中

を挙げる、出てきた想定危険を全員で復唱する、作業者は手順の各段階で出てきた想定危険への対策をまとめる、全員で対策を復唱する、作業者は作業に移り、伐倒～かかり木処理～枝払い・玉切り～整理まで行う、これを班毎に全員が順送りで行った。胸高直径20～30cm超樹高15～20m超の主としてスギが伐倒対象で各人1本以上の合計70本を、手順に従って伐倒した。

今回は、講師役を森林部会が担うというよりは、全員が講師であり同時に生徒でありお互いに手順を確認しながら、又、インストラクターとしてどのように正しい基本動作をボランティア参加者に伝えることができるか、全員で考えながらの実践主体のものでした。経験の多い人、少ない人それぞれが研修を通じてあらためて正しい作業手順が安全に繋がると言う基本を再認識することが出来た、そう言う感想も聞けた一日になりました。

(財)かながわトラストみどり財団の皆様のご支援を得ながら「ボランティア参加者に安全な間伐方法を教えることができるようにする」ため森林インストラクター全員が一致団結して作業技能とともに安全指導の向上を目指して取り組んでいます。

(財)かながわトラストみどり財団主催による神奈川県森林インストラクターの研修が平成23年1月29日に実施されました。「県民参加の森林づくり活動の指導者として、ボランティア参加者に安全な間伐方法を教えることができるようにする。特にかかり木になったときの処理を習得する」ことを目的に57名のインストラクターが南足柄市荻野の施業地で実習を行いました。

「危険予知トレーニング」(KYT)と呼ぶこととして、6人単位の班毎に次のような内容です。まず伐倒対象木を決めることから始まり、間伐作業におけるそれぞれの手順においてどんな危険が潜んでいるか想定されること



かかり木処理中

第2回 やどりき間伐大会 参加者募集

昨年に続き以下の要領で「間伐大会」を実施します。誰でも参加できます。かながわ森林インストラクターの他、本誌購読の皆様、水源林パートナーその他関係機関の皆様、団体でも個人でも、1時間の山登りが出来る方なら誰でも参加できます。作業経験のない方は安全な作業方法の指導を行います。問合せ、参加申込は3月20日（日）までに下記宛ご連絡下さい。

浦野 稔（電子メール：uranus_jpn@yahoo.co.jp、電話・FAX：046-238-3734）

日時：平成23年4月3日（日）9時～15時30分

集合：JR松田駅北口に8時30分、または、やどりき水源林ゲート前に9時（再集合）

作業場所：やどりき水源林内後沢（ウシロザワ）上部。寄沢本流と後沢合流点から標高790m地点まで標高差300mを1時間掛けて沢沿いの気持ちの良い経路を辿ります。

作業内容：未整備のヒノキ人工林を「訪れる人にとって親しみのある森林」となることを目標に、かながわ森林インストラクターの会が整備を進めている場所で直径15～25cmのヒノキの間伐を行います。

参加費：500円（保険代と資料代）

服装・持ち物：長袖シャツ、長ズボン、トレッキングシューズか安全靴、皮手袋か滑り止め付軍手、手拭、雨具、昼食、飲物、敷物、常備薬、（あれば ヘルメット、枝打鋸）
（ヘルメット、間伐鋸、ロープなどは用意します）

第2弾＊やどりき水源林は魅力がいっぱい！！

～溪畔林整備&森林癒しのフィールドづくり～



森林癒し部会からの報告 運営委員 吉田 郁夫(11期)

天候が心配されたが、小春日和の気持ち良い一日だった。

新松田駅に集合し、借り上げバスでやどりき水源林に。参加者はタカナシ乳業の社員とそのご家族。

大人だけと違って、やっぱり子供達がいるとそれだけで雰囲気が柔らかくなっているように感じる。

まずは全員で顔合わせと紹介。

午前「タカナシの森」の整備作業。3班に分かれ、小学低学年以下の子供達は、午後のクリスマスオーナメント用の材料集め。小学高学年は、この森に流れている小さな小川（本流の枝沢）を渡りやすくするための飛び石の橋づくり。材料集めの子供達は、タカナシの溪畔林のあちこちを散策しながら材料を探している。普段の舗装道路と違い、デコボコのある土と石を踏みしめながらの森の中の散策。大人は斜めになっている樹などの間伐体験。伐採する樹の選別は、県の指針に沿って厳選しての作業。

小生は小川の橋担当。どんなのを作ろうか？早速の提案。アーチ型の石橋を作る。でも、大変だと却下。石を流れの中に跳び跳びに並べるのが良いとのこと。最初はこぶし大の石を持ってきて流れに投入。しかし、流れに逆らえずに直ぐに崩れてしまう。もっと大きな石を。まずは集めよう。小学生の命令のもと大人が石を集める。この石をあそこに。表面が平らでないと歩きにくい。平らな石を選んで並べる。ガタツキを直したりして、川の中に通路ができた。歩いてみたが子供には間が広すぎる。



もう少し間隔を狭くして。靴が濡れるのもものかわ、子供達のもひとつ出来上がり。

もう一本は学習の成果があり、思ったより早く工事終了。

癒しの小径のポイントだけに、愛着を持ってもらえるようゆっくり作業した。自分たちが作った跳び石橋を何度も渡って、できばえを確かめる。時計は11時半を過ぎた。

昼食は上の小屋の前。家族が各々陣取ってポカポカ日の中で自然に包まれている。昼食後はタカナシ特製の紅茶とクッキー。さすが牛乳を主としたメーカー。紅茶の入れ方も本格的。ポットに茶葉を入れ、火気厳禁なので電熱器を利用してお湯を沸騰する直前まで熱する。お湯は高く持ち上げて注ぐ。茶葉が良く湯に混じって紅茶の香りを十分に引き出せるとのこと。カップにはまず温めた低温殺菌牛乳を入れそこに紅茶を注ぐ。我々もご相伴したが、確かに一味違って紅茶の香りが品良く香る。ラズベリーとクリームをトッピングしたビスケットも味を引き立たせてくれる。心地良い陽だまり。紅葉・黄葉の木々と川のせせらぎ。暖かい飲み物をすすっていると心地良さが身体の芯から湧いてくる。もう何もしないで夕方までここでのんびりと過ごしてもよい気分・・・と言う訳で、午後は1時半に開始。午後の活動はクリスマスオーナメント作りと森林癒しに分かれての体験。子供達は全員お飾りを作る班に。

癒し体験は2班に分かれて水源林の4箇所を巡る。整備したばかりの陽だまりの溪畔林でも瞑想。閉じたまぶたに日光を感じながら、スギ・ヒノキの巨木の下で寝て真上を眺めていると、樹木のそよめきと澄んだ青空。海の底に居て海藻の林から水面を眺めているように感じると感想があった。呼吸法で森の正常な空気を肺の奥底まで吸い込む。都会の憂さを吐き出して自然の息吹きを感じる。

もっと各地点でゆっくりと自然を感じ、自然との一体感を感じて欲しかったが、時刻が迫っていたのが残念。

帰ってくるとオーナメントを作っていた子供達が竹笛を吹きながら満ち足りた顔をしていた。

素晴らしい一日にしてくれたお天気とパートナー企業の「タカナシ乳業」の皆様に感謝。



<データー>場所：やどりき水源林*パートナー林

県担当：自然環境保全センター 久富

活動日：2010年12月4日(土) 快晴・9時~16時

インストラクター：

参加者：タカナシ乳業(株)社員&家族 28名

L 福島⑩、谷津⑦、若林(旧姓・江口)⑦

(大人20名・子供8名)

草野⑧、吉田⑩、

スタッフ：中原室長、渥美チーフ他2名

応援：高崎④、森本⑤、渡部⑦、中島⑨、

桜美林大学生が

ECO-TOPプログラムの体験研修で会活動に参加しています。

昨年11月に桜美林大学から要請を受けたECO-TOPプログラムを履修する学生への研修機会の提供について協議がまとまり、学生の体験研修が1月末からスタートしました。

(注)ECO-TOPプログラム・・・自然環境分野で幅広い知識を備え、行動力ある人材を育成する制度で行政、民間、NPO団体で20日間以上のインターンシップを行う。受け入れ団体は無償協力。

*今回の受講生は桜美林大学リベラルアーツ学群環境学専攻の3年生2名。

<平成22年度研修プログラム>

NO	実施月日	研修項目	内 容	担 当
1	1/31	オリエンテーション	会活動概要、日程確認 会報印刷、発送	竹島③
2	2/18	現場活動	森林講話(川崎市立新城小学校)	島岡③
3	2/26	現場活動	県民参加の森づくり	足立④
4	3/5	現場活動	森の案内人	竹島③
5	3/13	組織活動	やどりき水源林案内人説明会	久保⑧
6	3/16	現場活動	成長の森巡回	福島⑩

3月の活動で顔を合わせる事がありましたら、将来を担う若人に励ましの声をおかけください。(記 竹島)

私の認識

野鳥その86

高橋 恒通

ツル目ツル科の野鳥の二番手はマナヅル（漢和名：真鶴、英名：White-naped Crane、体長L=♂127 cm、♀109 cm、特別天然記念物）です。

♂♀同色、此の冬鳥の繁殖地はシベリア東部アムール川流域で、前稿のナベヅルとほぼ同じ地域から鹿児島県の出水平野に越冬の為にやってきます。

世界のトータル個体数は約 3000 羽弱と言われており、その中の約 1000 羽が我国に飛来するそうです。その飛来をナベヅルより若干時期が遅く、渡去が何故か早い野鳥です。

体色はナベヅルに似てますが、大きな相違点が幾つかあります。

その①は顔の前面が黒く目を取り囲む大きな赤色の皮膚、その②は頭頂から襟首から背面肩口までの白色（英名のWhite-naped Crane の nape（ネイプ）とは“襟首”を意味します。その③は喉下、首前部、胸前から体下面に続く黒灰色の部分、その④は淡桃色の脚、その⑤は雨覆、

三列風切羽が灰白色の点です。

出水平野ではナベヅルとマナヅルが同時に観察できる可能性が高いので、若しそのチャンスがあれば行ってみたいと思っております。

越冬地の棲息環境はナベヅルと共通してま



マナヅル

すが、ナベヅルよりも湿った所を好みます。

出水平野ではねぐらの水田から、穀物類が撒かれる給餌場へ移動して一日中そこで採餌するそうです。

行動様式の特長は、一度つがいになるとマナヅルは片方が死ぬまで連れ添い、越冬地でもつがいを求愛のディスプレイを演ずる点です。その姿はテレビでよく見る北海道の鶴居村でタンチョウの求愛ディスプレイと似て、嘴を天に向けて翼を上下させたりしながら発声するそうです。

その啼き声はナベヅルより体が大きく首が長い為か、太くこもり気味に「クルル」や「クアオークルル」や「クッククッ」などです。

越冬地でナベヅルが夜明けとともに一斉に啼き立てる時は「コロロ、コロロ」と太い声などです。

尚、ナベヅルとの見分けのポイントでもう一点を付け加えさせて貰いますと、その⑥が飛翔時、明るい灰白色と風切の黒灰色のコントラストが鮮明になる点です。

ツル目ツル科の三番手は迷鳥のアネハヅル（漢和名：姉羽鶴、英名：Demoiselle Crane、体長L=95cm）です。



アネハヅル

♂♀同色、此の迷鳥の体色は額、顔、喉下から体下面にかけて黒色で、頭頂から背面その他の部分全体が青灰色で、三列風切羽が黒色、そして最大のポイントは目の後方に白色の飾り羽が鮮明に出る点です。

棲息環境は水田、湿地、畑などで出水平野に飛来するナベヅルやマナヅルと同じです。

ナベヅルやマナヅルに混じって迷行して来るらしいが、来てからは1羽でいる事が多い野鳥だそうです。

世界地図上での繁殖地は、北緯40度辺りを中心として西はカスピ海からトルクメン、ウズベキスタン、タジキスタン、中国へと細長く領域で、主越冬地はインドですから我国への飛来は正しく迷行であると認識を私にしております。

我国での観察記録が最も多いのが出水平野だそうです。

<参考資料>

- ◎ 日本の野鳥、山溪カラー名鑑
編 高野伸二、解説 浜口哲一、森岡照明、
(山と溪谷社) 叶内拓哉、蒲谷鶴彦
- ◎ 鳥630図鑑、(財)日本鳥類保護連盟、
- ◎ 日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7
写真・解説/叶内拓哉、
分布図・解説協力/安部直哉、
解説(鳴き声)/上田秀雄、
(山と溪谷社)
- ◎ イラスト ~ 春 ~

TANZAWA* TANSHIN



2月13日
未明・・・
降雪
銀世界に
輝く表尾
根です。

広報部 M

活動短信

11/21～2/5

林内整備と森林癒し体験*自然観察

日 11月21日(日)晴れ 10時半～15時
場 やどりき水源林
参 鶴岡八幡宮 槐の会 91名

スタッフ 當麻・軽部他

イ L高崎④、竹島③、森本⑤、坂齋⑦、草野⑧、高橋⑨、宮下⑩、福島⑪、山下⑪、吉田⑪、

今回は4月の活動で予定をされていたが、悪天候のため実施出来なかった森林癒し体験を再度、企画して頂いた。多様な森林活動から、森林の素晴らしさ・大切さを認識して頂き、森林施業に関わって頂きたいと願っているため、ありがたい事である。

午前、延寿の森を中心に、間伐作業、階段・アニマルヘッジづくり、森林癒し体験の短縮路づくりを行った。延寿の森等の森林癒しスポットとタカナシの森の同スポットを結ぶ短縮路は無理なく作業でき、午後の体験に有効利用できた。他の活動にも、ぜひ活用して頂きたい。

午後は、森林癒し体験、自然観察をそれぞれ4グループ、3グループで実施した。タカナシの森では、「瞑想体験」等を行ったが、「こんな素晴らしい場所があったのか！案内してもらってありがたかった。」延寿の森では、樹冠の揺らぎを観察してもらったが、「気持ちが良いので眠くなった。」「木漏れ日が何とも言い難いくらい心地よかった」等の感想が印象深かった。アンケート結果も好評だったので、今後も企画して頂きたいと思っている。(記4期 高崎)

森林癒し体験&クリスマスリースづくり

日 11月27日(土)晴れ 10時～15時
場 やどりき水源林
参 日揮(株)社員など8名

スタッフ 日揮社員 佐藤①

県 自環保 小林
イ L高崎④、宮下⑩、

毎月の日揮パートナー林活動の多様な活動の一環として森林癒し体験を企画して頂いた。このところ、同様な企画・派遣要請が数社もあり、微増していることは喜ばしいことである。

午前の10時～12時頃、森林癒し体験を試みた。日本語が話せない外国の方2名の参加もあったが、あえて1グループで行動した。会話の堪能な佐藤さん、宮下さんがおられたことに加え、森林癒しのプログラムが五感に訴える観察的内容が多いので決断した。「樹冠の揺らぎ」「山道の微妙なカーブ」「谷川のせせらぎの音」「クロモジの匂い」「落ち葉の道の感触」等を、視覚・聴覚・嗅覚・触覚等を働かせて、楽しんで頂いた。

「樹冠の揺らぎでは」「安心して見上げてる内に、心穏やかになった。」はじめは、何々の形に似ている、何々のようだと考えた。でも、そのうち、そんなことはどうでも良くなってきて、のんびり過ごせた。」等の感想が印象的だった。

午後の12時半～14時半頃、クリスマスリースづくりにチャレンジした。大部分の方が、手芸屋さんで売っている人工物も用意してあったにもかかわらず、自然素材を生かした物を作っておられた。個人的には大変感心し、嬉しくなった。

(記4期 高崎)

森林整備活動体験 (除伐)

日 12月4日(土)快晴 12時～15時15分
場 県立21世紀の森
参 双日株式会社 エネルギー・メタル部門 21名
イ L斉藤⑧、浦野⑧、小笠原⑩、杉崎⑩、

双日株式会社 エネルギー・メタル部門の森林整備活動は、2008年より始まり今回が2回目、前日の大雨・強風が一転、快晴の一日となりました。

定刻の1時間前に集合し、現場確認を行いました。現地は25～30年生のヒノキ林にアオキやムラサキシキブなど灌木が入り込んだところで、斜面がきつく除伐というより間伐に近い印象を受けました。

今回、ほとんどの参加者が森林整備活動は初めてということでしたので、森林整備作業の意義、除伐と間伐の違いや安全作業などを重点的に説明し、準備体操後、現場に向かいました。現場では4班に分かれ、それぞれがきつい斜面で体勢を確保しながらの作業で、適時休憩を挟みながら進めました。

伐倒本数は各班1本でしたが、木を切り、ロープを引き、その他かかり木の対応など森林作業を通じて、様々な体験が出来たと思われます。

まとめの挨拶ではそれぞれが笑顔で応え、全員で記念撮影後、帰路につきました。(記8期 斉藤)

「平成22年度 川崎市里山ボランティア育成講座」
 第五回

日 12月11日(土)9時～15時半
場 麻生区黒川野外活動センター
参 一般市民 17名(男性12名・女性5名)
主催 川崎市公園緑地協会 2名
スタッフ 川崎緑レンジャー 4名
 その他

イ L松崎⑤、佐藤⑤、渡辺⑧

- ・今回は麻生区にある黒川野外活動センターで、午前中は竹林整備、午後は自然観察を行った。
- ・前回の榎戸緑地での野外活動が台風のため室内講義になってしまい実技ができなかったため今回は午前中を目一杯実技とした。
- ・参加者を3班に分け、緑レンジャー、森林インストラクターの指導の下、主としてモウソウチクの伐採と整理を行った。
- ・昼には、公園協会が招いたこんにやく作りのプロによるトン汁が振舞われ、参加者の中には2杯も3杯もおかわりをする者もいて楽しそうだった。
- ・午後は緑レンジャーが中心となり自然観察会を行った。・最後に「こども樹木博士」試験を実施。用意した10種類の植物の現物を見ながら答案用紙に名前を記入、野牛審査員が採点、その間松崎が該当樹種の解説を行った。・3時、全アイテムが終了、次回の予定を話した後、解散した。(記5期 松崎)

森林講話・水源涵養実験

日 12月17日(金) 9時~12時
場 厚木市立清水小学校 体育館、理科室、校庭、
参 5年生4クラス 147名 教師 4名
財 鳥海(下打合せ古館)
イ L武者⑦、高橋③、

“森林の働き、役割や人との係わりを教え、森林について自分達で出来る事を考えさせる”事が学習のねらいであり、学校側との下打合せで決めた次の内容の活動を行った。

最初、体育館に全員集め森林の働き、役割、里山についての解説を行い、続いて理科室Iで保水実験、理科室IIで関連するビデオを観た後、校庭に出て「いこいの池」-ビオトープ-と校庭脇に在る妻田薬師、傍にあり樹齢500の“妻田の大楠”や清水の湧く池などで説明、質疑応答をして終了した。天候にも恵まれ子供達もメモ取りなど熱心だった。久し振りで子供達と一緒に給食と会話を楽しんだ。(記 3期 高橋)

**県民参加の森林づくり体験講座G
(広葉樹林整備&城山公園散策)**

日 12月18日(土) 晴れ
場 大磯運動公園
参 一般参加 大人42名
財 永島、古館、**看** 青木
イ L渡部⑦、有田⑥、尾崎⑥、斉藤⑥、阿部⑧、
 村井⑨、**研** 大塚⑩、柳澤⑩、

大磯運動公園の整備は毎年1回程度実施されている。年末近くの土曜日にも関わらず30名募集のところ、研修中の12期生9名を含み42名の参加者があり、5班を編成した。

今回は今まで殆ど手が入っていない場所の整備で、広葉樹より笹竹、アオキの刈取りが主な作業であった。参加者全員が下刈カマと枝打ノコを使い作業にあたったが、面積の割にはハードな内容になった。参加者に鋸使いを体験してもらうねらいから、担当区域の作業が終わった班から雑木林の、枯木・倒木の間伐を行った。

限られた時間内で2種類の作業は大変だったが班担当インストラクターの指導で全員が達成感を得られ、良い汗をかいて作業は無事終了した。

昼食後、徒歩で近くの県立[城山公園]へ向かい、紅葉のきれいな園内の散策を楽しんで、大磯駅で解散となった。(記 7期 渡部)

**「平成22年度 川崎市里山ボランティア育成講座」
中級編 * 第六回**

日 H23年1月15日(土) 晴れ
場 等々力緑地(川崎市中原区)
参 一般市民 18名(男性12名・女性6名)
主催 川崎市公園緑地協会
講師 明治大学農学部 倉本教授
スタッフ 川崎緑レンジャー他9名
イ L松崎⑤、佐藤⑤、渡辺⑧、

川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズ平成22年度の第六回目(最終回)。今回は中原区にある等々力緑地で実施。9時30分スタート、初めに明大農学部の倉本教授が「川崎の里山」というテーマで講義を行った。11時から外へ出て緑レンジャーおよび森林インストラクターの指導の下、実作業「広葉樹の整備、コナラの伐採、シイタケの原木作り」に入った。作業は3班編成でそれぞれ直径25cm程度のコナラの伐採に取り組んだ。各班とも作業に入る前に準備体操と作業の説明を行い、高木の伐採のため特に安全に注意した。

午後も引き続き同じ作業を行い、倒した木の玉切り、枝払いを行った後、刃物の清掃、道具の片付けを行った。2時30分より公園緑地協会の事務所内で閉校式が行われ、同協会理事長より受講者一人ひとりに終了証が交付され、無事解散となった。解散後、関係スタッフ全員で反省会を行い、多くの意見交換がなされた。同協会では平成23年度も「里山ボランティア育成講座」を継続して実施する予定とのこと。

(記 5期 松崎)

**「平成22年度 川崎市里山ボランティア育成講座」
入門編 * 第六回**

日 1月16日(日) 9時半~14時半
場 川崎市黒川野外活動センター
参 一般市民による講座メンバー16名(子供4名)
講師 神奈川きのこ会 渡辺氏
スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか5名
イ L清水⑧、横山⑤、永野⑥、井口かおる⑧、
 小林⑩、金森⑩、

計六回講座の最終回。植樹する苗木の説明の後、3つの班に分かれて名札に樹木名を書き、計130本の苗木に取り付ける。歩いて5分ほどの緑地に移動、日当たりの良い斜面に植樹してゆく、足場が悪いにもかかわらず30分程で植え終わり、過去の講座で実習したことを思い出しながら周辺の草刈や自生した松を除伐する。参加の子供達はどこに植えるのがよいか考えながら、自分で穴を掘り、真剣そのものであった。昼食準備に竹を削ってマイ箸を作る。参加者が持ち寄った具材に加え、肉や手作り蒟蒻を入れたトン汁をいただく。昼休みを利用して焚き火で焼板を作る。板の焼き加減で個性的な形や色合いの作品になる。カラーマジックで名前などを書いてヒートンとヒモを付ければ立派な看板の出来上がり。午後は、神奈川きのこ会 渡辺講師によるキノコの概要と実際に付近を散策しての解説、さらに皆さんが探してきたキノコを机に並べて虫メガネを使って観察した、綺麗な構造をしたキノコが多い。講師がどンドン解説してゆくのをお必死にメモする。ユニークな名前やその効能に皆さん感心していた。協会の理事長から挨拶と今年度の終了証を授与して閉校とした。参加者には川崎市緑地公園協会が作成した“みどりのタウンページ”を配布した。

47団体の活動紹介や連絡先が掲載されており、今後活動を始めるうえで役立つ。

参加者から前回持ち帰った竹工作の皿を利用した

料理などが写真で紹介された。早くも、来年度講座を希望する方が多く受付を行った。知人への紹介もお願いしており、ますます盛況が期待できる。怪我は無く、今年度の講座は無事終了した。

(記 10期 金森)

森林講話 水源涵養林

日 1月20日(木) 9時15分～12時40分

場 横浜市立北方小学校

参 4年生 93名 教師 3名

財 古舘(下打合せ・堀江④)

イ 有田⑥、

活動内容 水源涵養林の役割や保全について

指導内容 小学校4年生相手の話なので①解り易いこと。②飽きさせないことの2点に重点を置いた。具体的には、クイズ形式で生徒達に発言する機会を多く作り、また、興味を引くのに有効な絵、グラフ、キーワードを、黒板に手書きすることで集中力の持続を図った。

話の要点は次の3点。

- *水、特に飲料可能な水の重要性
- *植物、特に森林の重要性
- *森林の質と水の質の関係

(保水、貯水、浄化、栄養付加)

課題 ・45分授業を3回繰り返すと言う事は、時間割の関係でやむを得ないのだろうが、45分間と言うのは、主要点を駆け足で触れて行くだけで終わってしまい、生徒達の印象に残るような、突っ込んだ話を盛り込めない。この学年の生徒の場合真ん中に10分の休憩を入れた90分授業が良いのではないか。・生徒達をフィールドに連れて行く企画もあるようで、その可能性について打診があった。

(記 6期 有田)

県民参加の森林づくり

日 1月30日(日) 晴れ 9時10分～14時半

場 真鶴町岩地内(真鶴町県行造林)

参 一般県民 33名

講師 小沢 操氏

財 高橋課長、永島、

イ L波多野⑨、石原③、相馬⑤、武者⑦、橋本⑩、

小笠原⑩、**研** 上宮田⑪、波多野⑪、

天候は快晴。気温は低めでしたが、間伐には最適のコンディションでした。作業状況は以下の通りです。

- ①作業は針葉樹(ヒノキ)の間伐作業。対象木は21年生で全般に細め。
- ②面積は2,61ha(傾斜は約10°～20°)
- ③現場は、傾斜が少なく初心者も作業がしやすい反面、密植気味でロープがないと倒せない状況。

作業自体は大きな事故もなく、無事に終了した。

作業終了後は、小沢 操さんによる「神奈川の森林の歴史」について講話して頂きました。気温が低かったためバスの中での聴講でしたが、参加者の事を考えると適切な対応だったと思います。

インストラクターの反省会でのヒヤリハットの報告はありませんでしたが、ロープをかける際のフェイディングレバーがあれば良かったとの声がありました。

(記 9期 波多野)

県民参加の森林づくり

日 2月5日(土) 晴れ 8時半～13時半

場 真鶴町岩地内(真鶴町県行造林)

参 一般県民 50名

財 永島、豊丸、**看** 廣島

県 森林組合連合会 川口

イ L宮下⑩、井出①、高橋③、鈴木碩⑥、山崎

⑦、飯澤⑨、水津⑨、鈴木朗⑨、横田⑨、松山⑩、

後藤⑩、**研** 川喜多⑪、岸⑪、鳥飼⑪、

松本⑪、山下⑪、

県民参加の森林づくりである間伐作業に、一般参加の方が50人、関係者を含め総勢70名が、真鶴駅に集合。天気も良く、穏やかで暖かさを感じる絶好の作業日和となった。

オリエンテーション後、体調管理、間伐に伴う事故と安全作業について説明。班分け後、道具を身につけ、いざ作業現場へ。現地は、ヒノキの21年生の林。現場では、安全を確保した間伐の仕方、危険区域と避難場所、かかり木処理やロープの使い方、玉切りと林の中での存置の仕方など、インストラクターからの丁寧な指導後、本格的な伐採作業が始められた。どの班も順調に作業が進捗したが、狭いエリアのため、かかり木処理は欠かせない状況。予定の時間には、事故もなく無事作業完了。間伐の効果もあり、太陽が林に入り、明るくなった。作業効果を感じるひと時でもあった。昼食は真鶴半島が眼下に見下ろせる広場で。そこには神奈川県でここにだけしかない、魚付き保安林があった。ミニ講座は、「魚付き保安林」ってご存知でしょうか?というテーマ。真鶴半島の魚付き保安林を背にしてのミニ講座である。事故もなく作業が終了し、全員が無事帰途に着いたことはありがたいことであった。

(記 10期 宮下)

枝打ち体験&森林講話&ナンづくり

日 2月5日(土) 晴れ 9時半～14時

場 辻村竹林奥植林地&小田原いこいの森

参 小田原市民親子 27名

スタッフ 小田原森林組合 佐藤、他2名

イ L白畑⑦、小沢⑨、村井⑨、大塚⑪、

9時半開始。親子27名で小学生の元気な女の子が多かったです。枝打ちは高さ2m程のヒノキで、子供達は夢中で枝打ちができ、作業終了の頃には「もっと切りたい」との声があがり、楽しく作業が出来ました。その後いこいの森に移動して山のお話やヒノキ材について学びました。お昼は待ちに待った、参加者手作りのナンとスタッフ特製のカレーに舌鼓。事務所で参加者のアンケートを拝見しました。

「楽しかった!!」「また、色々な企画に参加したい」との感想が見られました。(記 11期 大塚)

**やどりき水源林
ミニガイド**

2月のトピックス



淡雪が小枝に・・・まるで桜が満開のよう・・・

3月の水源林

Bコースで可愛いスノキの花を見つけて下さい。小さな丸い葉をかむとスタミナの酔の味です。



「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度（12月1月2月休止）
- 集 合：水源林入口ゲート前
- 内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。
- 参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(社) かながわトラスティみどり財団 TEL:045-412-2255
fax:045-412-2300
- ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
- E-mail:midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄（やどりき）」行き乗車約25分。バス下車後（案内板あり）川沿いに徒歩35分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

講演会「アカトンボはなぜ減ったのか？」*最近のアカトンボ事情*

ミュージック・フェスタ 2011
（生命の星★地球博物館開館記念日）
3月12日（土）～3月13日（日）
12日：オープニングセレモニー
地元の「入生田山神社子供祭囃子」のメンバーがお囃子を演奏します。他催し盛沢山です。
講演会は13時30分～
アカトンボの仲間の概要、最近のDNA研究から明らかになった進化の様子、各地におけるアカトンボの減少とその要因、最近の知見をもとにアカトンボの世界を多角的に紹介して行きます。

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

【送り先】

<①電子配信希望>

森 義徳

〒232-0053
横浜市中区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー・森宛 045-590-1910>
Mail: myforest@yha.att.ne.jp

<②メール原稿・手書き原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002
横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax: 045-476-4112
Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp
【別冊】金森 巖
〒227-0038
横浜市青葉区奈良2丁目10-5
Tel/Fax: 045-961-6695
Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001
東京都町田市つくし野2-13-7
Tel/Fax: 045-796-6011
Mail: @friend.ocn.ne.jp

***シンポジウム* 県立生命の星・地球博物館ミュージアムシアター**

より良い箱根ジオパークを考える！
2011年4月3日（日）14時半～16時半

出演者*袴田和夫氏（元大涌谷自然科学館館長）勝山輝男氏（地球博物館学芸員）鈴木康弘氏（箱根町立郷土資料館館長）

定員：先着300名・

プログラム：講演「箱根ジオパーク構想の概要とジオパークの理念」

講師：平田大二氏（地球博物館学芸部長）パネルディスカッションの進行に8期のかながわ森林インストラクター佐藤昭男氏と出演者として8期の石原和美さんが参加していますので皆様お誘いの上ぜひいらしてください。（広報 M）

編集後記

★本号をもちまして別冊編集担当を離れることになりました。約3年間でしたが、不具合なく楽しくできました、ご協力ありがとうございました。担当を交代してゆくことは会の人材発掘や経験蓄積のうえで大切だと思います。何かあれば暫くはフォローいたします。様々な情報をブログで発信しています、お時間あれば今後ともよろしくお願いいたします

ブログのアドレス

<http://morinotabibito.sblo.jp/>
（金森）

★新年度（4月号）より別冊の編集担当をすることになり、よろしくお願いいたします。これを機にパソコンを更新したのですが、操作不慣れで悪戦苦闘が続きそうです。（水口）

★ここかなり暖かくなった。そろそろ植物も”休眠打破”の時期に入った。その最も顕著な櫻は、今頃何を考えているのか是非聞いてみたい。会も新しい委員が決まる。NPQになって、今年も休眠打破の方針を期待したい。（鈴木松）

★電子配信担当の森です。皆さん、メールBOXの容量チェックやメンテナンスしていますか？メールの使い方わからない事は、電子配信担当に聞いてくださいね。（森）

★清川村で炭焼き（竹炭）を初めて体験してきました。おみやげにももらった竹炭で家の冷蔵庫のドアを開けるたびに感じる沢庵臭を消すことができましたらいいですね。（鈴木朗）

★春は曙 ようよう白くなりゆく山際少し明りて 紫だちたる雲の細くたなびきたる・・・春はもう間近。でも早々と花粉症で悩まれている方お見舞い申し上げます。（村井）

◇年間購読のお申し込み◇

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

（領 価 200円 送料共）

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫（HP）金森 巖

鈴木松弘 森本正信 森 義徳

鈴木 朗 水口俊則 ～春～